

第88回取締役会の内容について

IGRいわて銀河鉄道株式会社(代表取締役社長 浅沼康揮)では、「第88回取締役会」において、下記の点について承認されましたのでお知らせします。

- 【資料1】 令和2年度収支計画の見通しについて・・・p.1～4
- 【資料2】 車両更新プロジェクトについて・・・p.5～6
- 【資料3】 「もりはちツインきっぷ」について・・・p.7
- 【資料4】 地域との協働について・・・p.8～9
(滝沢市との共同PR/岩手川口駅「園井恵子 花のみち」)
- 【資料5】 他の鉄道事業者との連携について・・・p.10～11
(鉄印帳/鉄カード/くま川鉄道支援)
- 【資料6】 G・T・Oトラベルキャンペーンの動向について・p.12
- 【資料7】 銀河鉄道まつりのウェブページについて・・・p.13

※お問い合わせにつきましては、本日17時30分まで受け付けておりますので、下記担当までご連絡ください。

令和2年度収支見通しの概要

■全体概要

当期損益は ▲2億8,250万円(計画比:▲1億170万円)の収支見通し

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により営業収入は当初計画に対し4億2,590万円の減収となる見通しです。一方、営業費については人件費や業務費などの減により当初計画に対し、1億5,490万円の圧縮となったものの営業損益は2億7,100万円の減益となる見通しです。特別利益にいわて銀河鉄道運行支援交付金1億7,000万円が計上となったものの、結果として当期損益は当初計画比▲1億170万、令和2年度収支見通し▲2億8,250万円となる見通しです。

■営業収入について

当初計画 46億1,580万円 → 収支見通し 41億8,980万円

- 【旅客運輸収入の減】 ▲2億1,380万円：定期外運賃収入の減
- 【線路使用料収入の減】 ▲1億1,600万円：営業費に連動して減
- 【運輸雑収等の減】 ▲9,600万円：商品売上及び関連事業収入の減

■営業費について

当初計画 48億1,010万円 → 収支見通し 46億5,510万円

- 【人件費の減】 ▲5,020万円：退職者等による減
- 【業務費の減】 ▲9,240万円：商品仕入及び諸手数料等の減

～代表取締役社長 あさぬま やすき 浅沼 康揮 コメント～

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響による営業収入の減により、赤字決算の見通しとなりました。現在も先行き不透明な状況が続いており、厳しい経営環境が懸念されますが、お客さまの安全を第一に列車の安全・安定輸送を確保するとともに、引き続き新型コロナウイルス感染防止対策について徹底することとし、今後発生する費用の見直し及び設備投資の精査等により収支改善に努めてまいります。

【全体概要】

(単位：百万円)

	R1 決算	R2 当初計画	R2 見通し	計画比
営業収入	4,473	4,615	4,189	▲425
営業費	4,572	4,810	4,655	▲154
営業損益	▲98	▲194	▲465	▲271
経常損益	▲92	▲194	▲465	▲271
当期損益	▲52	▲180	▲282	▲101

※端数処理の関係で、各項目の合計と合致しない場合がある。

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出自粛等により営業収入は当初計画に対し4億2,500万円の減収。一方、営業費については人件費及び業務費等の減により当初計画に対し1億5,400万円の圧縮となり営業損益は2億7,100万円の減益。

特別利益にいわて銀河鉄道運行支援交付金1億7,000万円の計上が予定されているものの、結果として当期損益は▲2億8,200万円となる見通しである。

新型コロナウイルス感染症によって先行き不透明な状況が続いており、今後、更なる経営環境の悪化が懸念される。

【営業収入】

(単位：百万円)

	R1 決算	R2 当初計画	R2 見通し	計画比
旅客運輸収入	1,201	1,218	1,005	▲213
線路使用料収入	2,663	2,805	2,689	▲116
運輸雑収 関連事業収入 商品売上	608	591	495	▲96

営業収入については、旅客運輸収入が新型コロナウイルス感染症防止対策に伴う企業のテレワーク・在宅勤務の増加や高校・大学の臨時休校等によって大幅に減収となっている。また、商品売上等についても緊急事態宣言の発令によって各店舗利用者の減少、自社企画ツアーやイベントの中止により減収となる見通しである。

今後の感染拡大状況により営業収入の減少が更に懸念されるが、現状を踏まえた取組を実施するとともに、沿線地域の関係機関や団体の方々と連携を図りながら営業収入の確保に努める。

【営業費】

(単位：百万円)

	R1 決算	R2 当初計画	R2 見通し	計画比
人件費	1,101	1,159	1,108	▲50
業務費	994	1,062	969	▲92
修繕経費	2,040	2,117	2,110	▲7
諸税	121	131	126	▲4
減価償却費	314	339	339	0

営業費については、業務費が新型コロナウイルス感染症拡大による商品売上の減少に伴い商品仕入及び諸手数料等が減少したほか、首都圏への移動自粛等による外部研修や関係会社との打合せによる出張等の取りやめ、WEB 会議での実施となったことから旅費交通費等が減となった。また、人件費については退職者補充等抑制に努めており、当初計画より減少する見通しである。

今後も新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた費用等が見込まれることから、その他経費についても精査することでコストの管理を徹底する。

【現状を踏まえた当社の対応】

新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい経営環境が見込まれるが、当社の対応としてはお客様の安全を第一に列車の安全・安定輸送を確保するとともに、引き続き新型コロナウイルス感染症防止対策について徹底することとし、今後発生する費用の見直し及び設備投資の精査等により収支改善に努める。

令和2年度収支見通し

(単位:千円、税抜)

項目	R2年度 収支見通し A	R2年度 当初計画 B	増減 A-B	主な増減要因	R元年度 決算 C	増減 A-C
営業収入	4,189,840	4,615,829	▲ 425,989		4,473,819	▲ 283,979
旅客運輸収入	1,005,071	1,218,916	▲ 213,845	定期外運賃収入の減	1,201,281	▲ 196,210
線路使用料収入	2,689,619	2,805,667	▲ 116,048	営業費に連動して減	2,663,680	25,939
運輸雑収 関連事業収入 商品売上	495,150	591,246	▲ 96,096	商品売上及び関連事業収入の減	608,858	▲ 113,708
営業費	4,655,198	4,810,151	▲ 154,953		4,572,098	83,100
人件費	1,108,923	1,159,174	▲ 50,251	退職者等による減	1,101,610	7,313
業務費	969,755	1,062,233	▲ 92,478	商品仕入及び諸手数料等の減	994,974	▲ 25,219
修繕経費	2,110,445	2,117,566	▲ 7,121		2,040,058	70,387
諸税	126,913	131,636	▲ 4,723		121,163	5,750
減価償却費	339,162	339,542	▲ 380		314,292	24,870
営業損益	▲ 465,358	▲ 194,321	▲ 271,037		▲ 98,278	▲ 367,080
営業外収益	14,382	14,494	▲ 112		15,487	▲ 1,105
営業外費用	14,470	14,293	177		9,881	4,589
経常損益	▲ 465,446	▲ 194,120	▲ 271,326		▲ 92,673	▲ 372,773
特別利益	518,815	124,563	394,252	境田川原踏切拡幅工事竣工に伴う 工事負担金等収入及びいわて銀河鉄道 運行支援交付金による増	126,855	391,960
特別損失	331,570	107,318	224,252	固定資産圧縮損の増	82,281	249,289
税引前当期損益	▲ 278,201	▲ 176,875	▲ 101,326		▲ 48,099	▲ 230,102
法人税等	4,394	3,984	410		4,394	0
当期損益	▲ 282,595	▲ 180,859	▲ 101,736		▲ 52,493	▲ 230,102

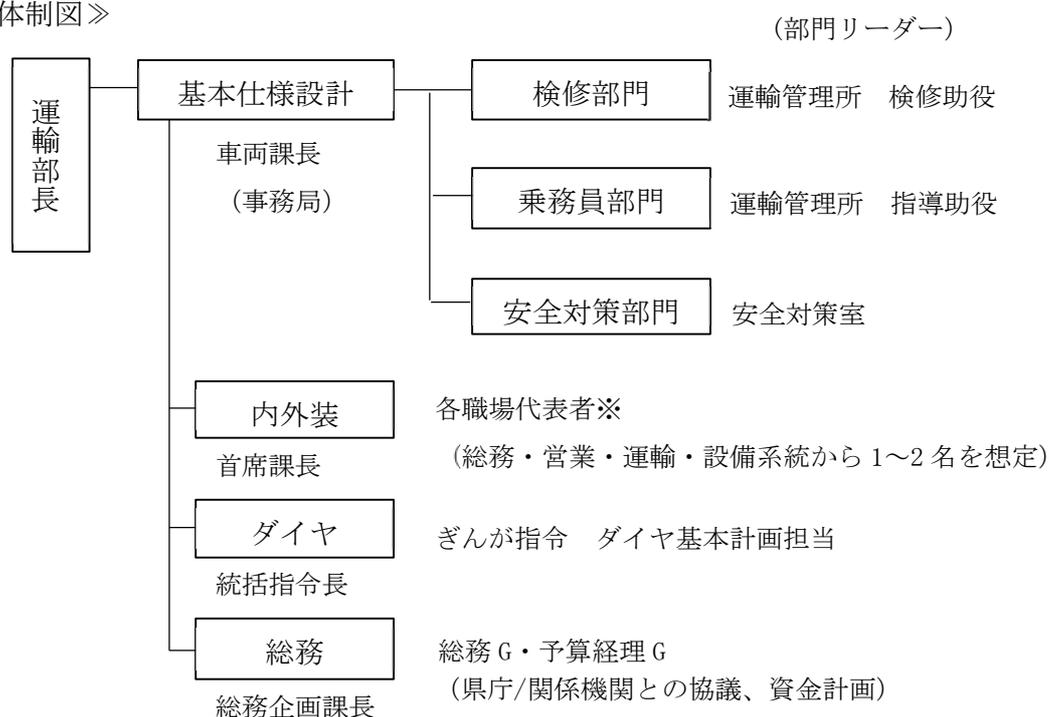
※千円未満端数処理の関係で、各項目の合計と合致しない場合がある。

車両更新計画プロジェクトチームの発足

今後予定される車両更新に向け9月1日、プロジェクトチームを発足した。

度重なる災害、社会情勢の変化、JR車両の更新計画など不確定要素が多いが、JR車両との互換性に配慮しつつ将来にわたりお客さまから親しまれる独自性のある車両とするため、車両の基本設計、ダイヤ、車両・乗務員運用、デザインなどを総合的に検討していく。

《体制図》



車両更新スケジュールおよび県・沿線市町村による支援計画の概要

当社車両はJR701系4編成（平成8年製）と自社発注車3編成（平成14年製）の計7編成体制でスタートし、平成26～27年度に全編成の機器更新を行い、機器の延命を図り現在に至る。

機器更新以降については、車両自体の老朽化や将来に亘る部品調達の課題などから、機器更新後概ね13年後を目途に車両本体を更新するものとして、県・沿線市町によって基金を新たに造成していただいている（別紙参照）。

現有7編成のうち3編成については、2027年度（H39）の13.5億円を充てて更新する予定とされている。また、2031年度（H43）に想定されている車両4編成の更新に要する費用については、2022年度（H34）までに別途検討するとされていることから、現段階では残る4編成すべてを更新する想定で検討を進めていくこととする。

以上

今後の IGR いわて銀河鉄道株式会社への財政支援について

岩手県及び沿線市町村が協調して造成した「いわて銀河鉄道経営安定化基金」は、IGR いわて銀河鉄道株式会社による鉄道事業の経営安定化のため、IGR 線開業後概ね 10 年間（平成 15～24 年度）に見込まれる経費の所要額を積み立て、同社に対し、開業に伴う運賃激変緩和、設備更新及び災害復旧に係る経費等を支援してきたところであり、11 年目（平成 25 年度）以降の対応については改めて検討することとされてきました。

県及び沿線市町村は、今後の沿線市町村人口の減少や、同社の線路使用料収入増等を勘案しながら検討を重ね、今般、同社に対し今後の財政支援への沿線住民の理解が得られるよう経費節減等一層の企業努力を求めていくとともに、下記のとおり今後の財政支援について合意しましたので、お知らせします。

記

1 検討の前提

鉄路の存続と今後 10 年間（平成 25 年度から平成 34 年度まで）の健全経営の維持。

ただし、その次の 10 年間（平成 35 年度から平成 44 年度まで）において、現時点で想定される大規模設備更新（車両）についても検討しました。

2 支援の内容

(1) 車両本体の更新費

ア 内容

平成 39 年度に想定される車両 3 編成（6 両）の更新に要する経費 13.5 億円

イ 支援の方法

平成 27 年度から、いわて銀河鉄道経営安定化基金を追加造成し、車両更新年度に取崩します。

なお、当面、所要額を 13.5 億円と見込みますが、将来的に車両体制の変更、物価変動、仕様の変更及び国庫補助の可能性等がありうるため、その額は今後 10 年間を経過する前までに見直します。

ウ 年度別造成額

(単位：千万円)

区分	年度	10 年間											小計	10 年間											小計	合計	
		25	26	27*	28	29	30	31	32	33	34	35		36	37	38	39	40	41	42	43	44					
車両更新	3 編成			10	10	10	10	10	10	10	10	10	80	10	10	10	10	15								55	135

※ 年度毎の造成額を平準化するため、所要額を車両(減価償却資産)の耐用年数(13年)で按分した額(毎年度 1 億円、平成 39 年度のみ 1.5 億円)を平成 27 年度から毎年度造成し、更新に備えるもの。

エ 県及び沿線市町村の負担割合（IGR への出資割合による。）

- ・ 県 62.5%（平成 27～34 年度までの造成額 毎年度 6.25 千万円）
- ・ 沿線市町村 37.5%（平成 27～34 年度までの造成額 毎年度 3.75 千万円）

(2) 災害復旧費

ア 内容

平成 25 年度から平成 34 年度までの間に発生する費用 所要額

イ 支援の方法

基金の残額（約 2 億円弱見込み（平成 24 年度末時点））により対応。

3 その他

平成 43 年度に想定される車両 4 編成の更新に要する費用については、現段階でその時点の車両体制の見極めが困難であることから、別途、平成 34 年度（10 年後）までに検討します。

『もりはちツインきっぷ』について

盛岡～八戸間は、中核市を結んでいるにもかかわらず極端に利用が少ない状況である。
青い森鉄道とともに、条件付きで割安なきっぷを発売することで需要を喚起していくものである。

利用期間：令和2年11月～令和3年4月

新型コロナウイルスの状況によっては延期

利用区間：IGR盛岡駅～青い森鉄道八戸駅間

発売額：2枚で4千円台（所定運賃6,220円）

《これまでの青い森鉄道との共同きっぷ》

☆平成15年11月～16年1月の土休日 「開業一周年 盛岡・八戸乗り放題きっぷ」

・盛岡～八戸間1日乗り放題、3,000円+27店の割引チケット、販売数：1,554枚

☆平成26年10月の土休日 「IGR・青い森鉄道鉄道の日フリーきっぷ」

・盛岡～青森間2日間乗り放題、3,000円、販売数：650枚

☆平成29年12月の土休日 「IGR・青い森鉄道15周年フリーきっぷ」

・盛岡～八戸間1日乗り放題、1,500円、販売数：5,033枚

地域との協働について

1. 滝沢市との共同 PR

滝沢市の公式キャラクター「ちゃぐぽん」と IGR のキャラクター「ぎんがくん・きらりちゃん」とのコラボレーションを開始しました。双方が持つ人気キャラクターのコラボレーションにより、IGRと滝沢市を身近に感じていただくと共に、広くPRしていくことを目的としています。

8月7日(金)、滝沢駅にて駅舎装飾や顔出しパネルをお披露目し、川前保育園の園児による太鼓演奏で盛り上げていただきました。当日は電車の乗り方を記載したクリアファイルや缶バッジの配付も行い、報道もしていただきました(テレビ1社、ラジオ1社、新聞2社)。



2.岩手川口駅「園井恵子 花のみち」について

岩手川口駅敷地内、旧駐輪場跡地に「園井恵子花のみちプロジェクト実行委員会(柴田和子委員長)」様が設営中でありました「園井恵子花のみち」は、令和2年8月21日に第一期工事(総延長33m)を完了し、落成式が執り行われました。

当駅は、原爆に散った未完の大女優として知られる園井恵子さんが昭和4年6月、15歳の時に夢と希望をもって単身宝塚へ旅立った駅として知られています。総工費約350万円はクラウドファンディングをはじめ全額寄付金で賄われました。また、整備計画発表から落成式当日に至るまで、多くのマスコミに取り上げられ、落成後は多くの来訪者でにぎわっております。「園井恵子花のみち」完成に伴い、岩手川口駅周辺の賑わい創出に貢献していただきましたことに、感謝申し上げます。

今後当プロジェクト実行委員会では、地域の方々による管理作業を通して、現状の園地を充実させていくほか、募金活動を継続することで、残る33mについても近い将来整備し、全長66mの花のみちを全面整備完成させていく予定とのことです。

IGRとしては、地域の方々と共に「園井恵子旅立ちの駅」として、当「園井恵子花のみち」を含めた駅周辺の整備に協力していきます。



他の鉄道事業者との連携について

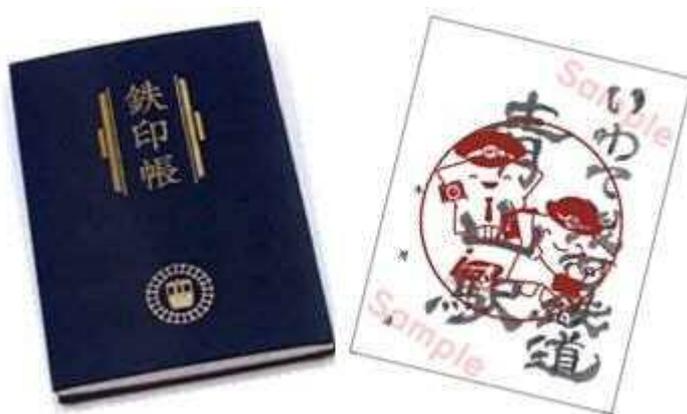
1.鉄印帳について

第三セクター等鉄道協議会が初めて主催した利用促進事業で、お客さまに共通の「鉄印帳」（神社の御朱印帳のようなもの）を購入していただき、各社の指定窓口でオリジナルの「鉄印」を購入し集めていただくものです。

新型コロナウイルスの影響にもかかわらず、初日に完売の会社もあるなど売れ行きが好調で、発売3日後には当社分100部も完売して重版が決定しました。

鉄道ファンだけでなく、御朱印好きや旅行好きの方など、幅広い層から好評をいただいております。

- ① 価格 鉄印帳 2,200 円
鉄印・記帳 300 円
- ② 場所 青山駅青山南口
- ③ 開始 7月10日(金)
- ④ 参加社数 40社
- ⑤ 当社発売数
159冊、451枚(8月末日現在)



2.鉄カードについて

中小鉄道の利用促進を目的とした「鉄カード」に初めて参加しました。

岐阜県の明知鉄道の社員が流行しているダムカードを参考に発案したトレーディングカードです。



- ① 価格 無料（500円以上のお買い上げで1枚プレゼント）
- ② 場所 主要駅・銀河鉄道観光・びすとり銀河
- ③ 開始 8月7日(金)
- ④ 参加社数 13社（累計延べ212社）
- ⑤ 当社配付数 1,000枚

3.くま川鉄道支援について

7月豪雨で橋梁が流出し、車両が水没するなど甚大な被害を受けた熊本県の「くま川鉄道」を支援するため、えちごトキめき鉄道の鳥塚社長が発案したものです。

東日本大震災の際に東北の鉄道への支援をいただいたことへの、ささやかな恩返しになればと考えます。

- ① 価格 3,000 円（消費税・振込手数料等を除く 2,550 円を寄付）
- ② 場所 盛岡駅・青山駅青山南口
- ③ 開始 8月7日(金)
- ④ 参加社数 21社(当初)
- ⑤ 発売数 17冊(8月末日現在)



GoToトラベルキャンペーンの動向について

GoToトラベルキャンペーンとは

宿泊を伴う、または日帰りの国内旅行の代金総額の1/2相当額を国が支援する事業給付額の内、70%は旅行代金の割引に、30%は旅行先で使える地域共通クーポンとして付与されます。

実施期間は令和2年7月22日～令和3年1月31日宿泊分までです。

※事業予算がなくなり次第終了となる見込み

※給付金上限額 [宿泊を伴う場合：14,000円/泊]

[日帰り旅行の場合：7,000円]

【GoToトラベルキャンペーンの動向について】

7月22日から実施されているGoToトラベルキャンペーンについては、銀河鉄道観光も参画事業者登録を行い事業に参画しています。

ご利用のお客さまの動向としてはコロナ禍の影響もあり、少人数で自家用車を利用し近場に宿泊するという旅行形態が多くみられ、その中でも特に高級施設やお部屋を露天風呂付にグレードアップするなど普段では中々手の届かない施設を利用し、割引特典を最大限に活用しようという傾向がみられました。

今後はGoToトラベルキャンペーンを活用し、グレードの高い宿泊施設を利用するなど、遠くに行けない分、近場で楽しむマイクロツーリズムという旅行スタイルが増えてくると予想されます。

【銀河鉄道観光を利用するメリット】

お客さまが宿泊施設に直接予約をした場合に割引を適用するには、「ステイナビ」のサイトに登録するか、宿泊代金を全額支払ったうえで還付手続きを行うなど、手続きが煩雑です。

銀河鉄道観光を利用することにより、お客さまに代わり給付金受領の手続きを行うことから、手間なく割引いた金額での宿泊、旅行が可能であり、地元割クーポンなど併用可能な割引であれば合わせての手続きが可能です。

銀河鉄道まつりウェブページについて

新型コロナウイルスの影響で開催を断念した「銀河鉄道まつり」の代替りとなるウェブページを制作しており、今年の10月に公開を予定しています。

目的

- ・お客さまへの日頃の感謝を伝える。
- ・普段はお見せすることのできない業務や場所を動画公開することで、多くの方に楽しんでいただくと共に、I G R業務への理解を深めてもらう。
- ・今後のI G R利用や銀河鉄道まつり来場へつなげる。

予定しているコンテンツ

- ・動画（業務中の様子、作業視点の様子、駅員の1日、出展予定だった方の紹介など）
- ・親子で楽しんでいただけるダウンロードコンテンツ（ぬりえ、迷路、ペーパークラフト、すごろくなど）
- ・ミニゲーム（絵合わせ、クイズなど）

以上